

## 八王子市立長池小学校 学校経営報告書

本校では、「よく考え学ぶ子 思いやりをもち助け合う子 明るく元気な子」の育成を教育目標に掲げ、地域・保護者の皆様と連携した学校経営を推進してきた。

また、目指す学校像として、次の 3 点を掲げた。

- ① 安全・安心で信頼される学校【学校の基盤】
- ② 学び合い、知徳体を高め合う学校【学校の中核】
- ③ 生きがいをうむ学校【学校の理念】

本報告書では、目指す学校像に沿って今年度の教育活動の成果と課題について報告し、次年度の教育活動をさらに充実したものとすることを目的とする。

### 1 「安全・安心で信頼される学校」について

以下は、令和 7 年 1 2 月に実施した保護者アンケート（2 回目）の結果である。

※1 あてはまる 2 ややあてはまる 3 あまりあてはまらない 4 あてはまらない 5 分からない

児童数：306  
回収数：130  
回収率：42.5%

令和 7 年度 後期学校評価		回答数					百分率					前期 1.2 合計%	後期 1.2 合計%	回答数計
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5			
1	学校の教育方針（めざす児童像「よく考え、学ぶ子、思いやりをもち、助け合う子、明るく元気な子」）を知っている。	127			3		97.7%			2.3%		98.1%	97.7%	130
2	学校は、特色ある取組を行っている。（安心安全で信頼される学校・学び合い、知徳体を高め合う学校・生きがいをもつ学校）	113			17		86.9%			13.1%		89.2%	86.9%	130
3	本校が松木中（小）学校と合同で行う取組（小中一貫教育の日、三校合同あいさつ運動、運動会のボランティア）について知っている。	127			3		97.7%			2.3%		94.9%	97.7%	130
4	学校は、子どもが安心・安全に過ごせるように、避難訓練などの安全管理に取り組んでいる。	105	22	0	0	3	80.8%	16.9%	0.0%	0.0%	2.3%	96.8%	97.7%	130
5	学校は、「特別の教科 道徳」を含む教育活動全体を通して、子どもたちが自分の大切さ、他の人の大切さを認め、行動できるような教育をすすめている。（いのちの大切さを共に考える日の取組、SOSの出し方の取組、ふれあい月間の取組 等）	84	38	1	0	7	64.6%	29.2%	0.8%	0.0%	5.4%	92.4%	93.8%	130
6	学校は、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等、いじめを許さない学校づくりに組織的に取り組んでいる。（6月のふれあい月間、児童へのいじめに関するアンケートの実施、10月のふれあい月間および集会等）	82	35	4	0	9	63.1%	26.9%	3.1%	0.0%	6.9%	90.5%	90.0%	130
7	子どもの学級では、授業や学校行事に意欲的に取り組むよう、指導が行われている。	86	31	5	0	8	66.2%	23.8%	3.8%	0.0%	6.2%	91.8%	90.0%	130
8	学校は、授業において、説明、板書、話し合い活動、ICT機器（1人1台の学習用端末等を含む）の活用などの工夫に取り組んでいる。	81	32	7	1	9	62.3%	24.6%	5.4%	0.8%	6.9%	92.4%	86.9%	130
9	学習活動に対する評価は適切・公平である。	71	40	4	3	12	54.6%	30.8%	3.1%	2.3%	9.2%	86.7%	85.4%	130
10	学校は、子どもたちがよりよい学校生活を送れるように、生活目標を設定したり、きまりを守ったりする指導を行っている。	81	40	1	0	8	62.3%	30.8%	0.8%	0.0%	6.2%	94.3%	93.1%	130
11	学校が、「はちおうじっ子 キャリア・パスポート」等を用いて、子どもの生き方や将来についてのキャリア教育を行っていることを知っている。	95	26	3	1	5	73.1%	20.0%	2.3%	0.8%	3.8%	89.2%	93.1%	130
12	学校は、学習環境の整備に取り組んでいる。	76	37	4	0	13	58.5%	28.5%	3.1%	0.0%	10.0%	89.2%	86.9%	130
13	学校は、保護者に対して、学校便りやホームページ等で適切に情報を提供している。	96	28	5	0	1	73.8%	21.5%	3.8%	0.0%	0.8%	96.2%	95.4%	130
14	学校は、特別支援教育（特別な支援を必要とする子どもに対する教育）に取り組んでいる。	86	24	3	1	16	66.2%	18.5%	2.3%	0.8%	12.3%	85.4%	84.6%	130

全14項目中、「1（あてはまる）、2（ややあてはまる）」の肯定的評価が併せて85%以上であった項目が13項目（そのうち9項目が90%以上）であった。これは、本校の教育方針が保護者の皆様に広く浸透し、日々の教育活動への信頼が得られている証左と言える。特に、「4 学校は、子どもが安心・安全に過ごせるように、避難訓練などの安全管理に取り組んでいる。」の項目で肯定的評価が97.7%、「13 学校は、保護者に対して、学校だよりやホームページ等で適切に情報を提供している」の項目で肯定的評価が95.4%であったことは、「安全・安心で信頼される学校」につながると考える。

一方、「5分らない」と回答した項目に目を向けると、10%を超えた項目が2つあった。一つは「12 学校は、学習環境の整備に取り組んでいる」の10.0%（肯定的評価は86.9%）、もう一つは「14 学校は、特別支援教育（特別な支援を必要とする子どもに対しての教育）に取り組んでいる」の10.8%（肯定的評価は84.6%）である。これらの項目については、今後、保護者の皆様に取り組み内容がより伝わりやすいよう、発信のしかたを工夫していきたい。

また、「6 学校は、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等、いじめを許さない学校づくりに組織的に取り組んでいる。（6月のふれあい月間、児童へのいじめに関するアンケートの実施、10月のふれあい月間および集会等）」については、肯定的評価が合わせて90.0%であった。本校では全教職員が一丸となり「いじめは絶対に許さない」という姿勢で日々の教育活動にあたり、「長池タイム」では子どもの話に耳を傾け、また毎週金曜日に行っている「いじめ対策委員会」では全教員で情報共有をし、いじめ事案があった場合には対応策を検討している。子どもや保護者から相談があった場合には、臨時のいじめ対策委員会を開き、即時対応をしている。そのような取組を通して、子どもが「安心して学校に通える」、保護者の方が「安心して学校に通わせられる」と思えるような学校を、今後も全教職員が一丸となりつくっていく所存である。

不登校（傾向）の子どもについては、必ずしも登校することを前提にするのではなく、本人や保護者の気持ちに寄り添いながら、関係機関とも連携し、繋がりを切らすことなく、その子のよりよい成長を目指して共に歩んでいきたい。

アンケートの自由記述欄には、教職員の熱意ある指導に対する感謝の言葉が多数寄せられた。特に、運動会や音楽会等の学校行事において、子どもたちが生き生きと活動する姿や、それを支える教職員の姿に感動したとの記述が目立った。また、学級通信やホームページを通じた情報発信が充実したことで、「学校の様子がよく分かるようになった」「安心して子どもを預けられる」といった、学校と家庭の信頼関係の深まりを感じさせる意見が多く見られたことは大きな成果である。同時に、そのようなお言葉は我々教職員にとって本当に嬉しく、励みになるものであり、たいへん有難いものである。一方、改善点として、「学校行事の予定把握をより早期に行いたい」との要望が散見された。共働き世帯の増加に伴い、より迅速かつ正確な情報発信が求められている。年度末のできるだけ早い時期に次年度の予定をお示しするとともに、学校だより・学年だより等を通じて早めの情報発信をし、さらに個別対応もしていく。また、「運動着の名前の縫い付け」に関する意見もいただいた。長年の慣例となっているルールを「児童の安全」「防犯」「保護者の負担軽減」の視点で見直し、時代に即した教育環境を整備していく。

安全・安心のためには、保護者・地域との連携もとても大切である。ながいけ会・学校運営協議会の皆様には登校時の安全確保のために毎朝通学路での見守りをしていただいた。青少年対策松木地区委員会の皆様には地域パトロールや地域美化活動をしていただいた。三校合同学校運営協議会の皆様にも日頃から子どもたちの見守りや健全育成にご尽力いただいた。そのような中でも、特に本地域の伝統になりつつある浄瑠璃祭りは子どもたちにとっても楽しみな行事であり、また地域のつながりを感じられるたいへん貴重な場である。今後、本校の教育活動にも積極的に浄瑠璃祭りに関する学習を取り入れ、より一層子どもたちが浄瑠璃祭りに関心を向けるようにしていきたい。長池小学校地区防災協議会の活動も、地域の安全・安心のためにたいへん素晴らしい活動である。昨年度、長池小学校地区防災計画が八王子市のホームページにも掲載されることとなり、今後より一層の活動の充実が期待される。このような、本校に関わる皆様の様々な活動のお陰で安心・安全が守られていることに、心から感謝したい。

## 2 「学び合い、知徳体を高め合う学校」について

### (1) 保護者アンケートより

先の保護者アンケートの項目5～11が「学び合い、知徳体を高め合う学校」に特に関わる項目であるが、概ね肯定的な評価をいただいた。1人1台の学習用端末の活用は定着しつつあるが、今後は、ICTを単なるツールとしてだけでなく、自ら学ぶ意欲を高めるための手段として深化させる必要があると考える。

「学び合い、知徳体を高め合う学校」のためには、何よりも教員の授業力・指導力の向上が図られなければならない。今後も、校内研究やOJT研修会はもとより、市の公立小学校教育研究会をはじめとする学校外の研究会・研修会等に教員が主体的に参加し、力量を高めていくことが肝要であり、そのような学校としての風土を醸成していく。

### (2) 教員による内部評価より

教員による内部評価において、「学び合い、知徳体を高め合う学校」に関わる項目について「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」のうち「あてはまる」と回答をした割合は、それぞれ次のとおりであった。

- ・特色ある取り組み（安心安全で信頼される学校・学び合い、知徳体を高め合う学校・生きがいをうむ学校）を積極的に実践できた。……………44%
  - ・児童に自分の大切さ、他の人の大切さを認め、行動できるように指導できた。また、児童への言葉遣い、掲示物等、人権に気を付けることができた。……………94%
  - ・落ち着いて学習できる雰囲気を作るために、積極的に指導することができた。……………81%
  - ・授業において、説明、板書、話し合い活動、ICT機器（1人1台の学習用端末等を含む）の活用などの工夫に取り組むことができた。……………69%
  - ・児童に「分かる楽しさ」「できる喜び」を味わわせることができる授業を実践することができた。……………38%
  - ・児童のよさや頑張りを認め、適切・公平な評価に努めることができた。……………75%
  - ・各学年の発達段階に合わせ、各教科・道徳・総合的な学習の時間等を活用してキャリア教育を行うことができた。……………50%
  - ・児童は、読み・書き・計算の基礎基本を身に付けている。……………25%
  - ・児童は、家庭学習に取り組んでいる。……………44%
- どの項目も、「ややあてはまる」も加えると94～100%となり、教員の意識として「学び合い、知徳体を高め合う学校」がつけられているといえる。今後は、特によりよい授業実践、読み・書き・計算の基礎基本を児童に身に付けさせる意識をさらに高めていければと考える。そのためにも、先の「(1) 保護者アンケートより」の項でも述べた通り、教員としての力量アップのため様々な研修等を通して不断の努力を継続していくことが大切である。

### (3) 八王子市学力定着度調査より

12月に4年生以上で実施された八王子市学力定着度調査の結果を、平均正答率について市平均と比較すると次の通りであった。（差の（ ）内は5月実施時の差）

	国語			算数		
	本校平均	市平均	差	本校平均	市平均	差
4年生	76.5	68.2	+8.3(+4.7)	72.7	66.0	+6.7(+3.5)
5年生	65.8	66.0	-0.2(-2.3)	65.4	62.9	+2.5(+1.8)
6年生	74.4	68.4	+6.6(+6.4)	68.1	62.7	+5.4(+4.0)

5年生の国語が-0.2であった以外は全ての項目において市平均を上回っていた。また、全ての項目において5月実施時の差を上回っている。今後、大切なことは個々の子どもがつかまづいてるところを把握し、一人一人に確実に学力を定着させていくことであると考え。今後も、全て

の子どもに基礎的・基本的な学力を確実に定着させていくために、不断の授業改善を図ることはもとより、はちおうじっこミニマム・朝のまなびタイム・算数補習等の取組を計画的、継続的にを行い、丁寧な個別指導を継続していく。

#### (4) はちおうじっこミニマムへの取組より

基礎的・基本的な学力の定着を目指して6年生（から中学3年生）で実施しているはちおうじっこミニマムについて、全員が満点を取ることを目標に取組を行った。6年生61名中、1回目のチャレンジで満点だったのは国語3名、算数5名であった。その後、補習を行い、定着を図り、2回目のチャレンジでは国語で9名、算数で10名の児童が満点を取ることができた。満点を取らなかった児童については、3学期が終わるまで全問正解チャレンジを継続していく。

#### (5) 校内研究への取組より

今年度は児童の学力向上と教師の授業力向上を目指し、研究主題『主体的に考え、すすんで学ぶ児童の育成 ～国語科「物語文」の指導を通して～』を設定し、研究に取り組んだ。

研究を進める中で、1学期と2学期に児童の意識調査を行った結果は次の通りであった。（数字は「当てはまる」「どちらかという当てはまる」「どちらかという当てはまらない」「当てはまらない」の選択肢のうち「当てはまる」と回答した児童の割合）

全学年	1学期	2学期
国語の勉強は好きだ	32%	43%
国語の授業の内容はよく分かる	49%	55%
物語文の学習は楽しい	41%	53%
物語文で自分の感想や考えをもつことができる	44%	60%
物語文で自分の感想や考えを書いたり、話したりすることができる	41%	53%
低学年		
お互いの感想や考えを伝え合うことによって「なるほど」「おもしろい」と思うことができる	45%	83%
中学年		
お互いの感想や考えを伝え合うことによって、自分との違いがあることに気付くことができる	83%	85%
高学年		
お互いの感想や考えを伝え合うことによって、自分の考えを広げることができる	81%	84%
つばさ学級		
お互いの感想や考えを伝え合うことによって「なるほど」「おもしろい」と思うことができる	50%	72%

この結果から、国語の学習に対する児童の肯定的な意識は全体として高まっていることが分かった。特に、物語文の学習や感想・考えを伝え合う活動において、友達の考えに触れることで「なるほど」「おもしろい」と感じる児童が増えたことが分かる。今後は、対話的な学習活動を継続するとともに、考えをもつことや表現することに難しさを感じている児童への支援の在り方について検討していく必要がある。

この他、本研究の成果と課題としては、次の点が挙げられる。

#### 【成果】

- ・毎時間の流れを統一したり、単元を貫く課題を設定したり、前時までの学習の記録を掲示物にしたりしたことにより児童が見通しをもってより主体的に学習することができた。
- ・劇化やキャッチコピー作り、気持ちカードの活用など多様な活動を工夫したり、挿絵や心情円、パラメータなど視覚化の工夫をしたりしたことにより、児童は自分の思いや考えをもち、書いたり話したりできるようになってきた。

#### 【課題】

- ・主体的に考え、すすんで学ぶ児童を育成していくために、自ら「問いを持つ」「問いをたてる」

という視点を意識し、学校全体や学年で何を重視していくか、一層吟味していく必要がある。

- ・今後も対話的な学びを工夫するとともに、自分の思いや考えをもったり、それを表現したり

また、本研究を進めるにあたり八王子市教育委員会教育指導課 指導主事 池田雅孝先生、松ケ谷小学校 元校長 外所弘章先生、八王子市授業マイスター 城山小学校 白尾隆先生にたいへん貴重なご指導をいただいたことに心より感謝申し上げます。

#### (6) 学校運営協議会の取組より

本校では、学校運営協議会主催の漢字検定を毎年3学期に実施している。この取組は、子どもたちの学習意欲を高めると同時に、一年間の漢字学習の集大成として学習内容の定着につながっている。たいへん有難い取組であり、心より感謝申し上げます。

### 3 「生きがいをうむ学校」について

人はどんなときに生きがいを感じるのか。例えば「時間が経つのも忘れて何かに没頭しているとき」、「自分のしたことが誰かに喜んでもらえたとき」、「自分のしたことが誰かの役に立ったと実感できたとき」、「自分や子どもの成長を実感したとき」等が思い浮かぶ。もっとシンプルに「おいしいものを食べたり飲んだりしているとき」というのもあるかもしれない。いずれにしても、何に対して生きがいを感じるかは人それぞれだが、心からの喜びや楽しみ、充実感を得ているとき、人は「生きていて良かった」と思い、それが「生きがいを感じる」ということなのではないだろうか。

さて、本校においては、本校に関わってくださる全ての方々と共に、子どものよりよい成長のために行うこと、子どもの幸せのために行うことが、我々大人の喜びや幸せにもつながるという思いのもと、日々の学校経営にあたってきた。

子どものよりよい成長のためには、まず安心して日々を過ごせることが何より大切であり、そのために、担任による普段からの声掛け等のもと、「長池タイム」、「ふれあい月間の取組」、「カウンセラーによる全員面談（5年生）」、「QU アンケート（6年生）」等を実施し、学校全体で情報を共有しながら対応してきた。

また、特に学級活動や委員会活動、クラブ活動、たてわり班活動等の仲間と共に行う活動において、子どもたちが主体的に活動できるような指導の工夫をし、活動の充実を図ってきた。

子どもが自分の成長を実感できるようにするためには、「分かった!」「できた!」という実感のもてる授業が何よりも肝要であると考え、校内研究やOJT等を通して教員の授業力向上を図ってきた。このことは、教員の生きがいにも通じることであると考え。また、キャリアパスポートを活用して子どもが自らの取組等を振り返り、成長を書き記すことも、成長を実感するために有効であったと考える。

教員の側に目を向けると、先ほども述べた授業力向上が第一であることは言うまでもないが、校務分掌において、協働の精神を大切にしながら、「担当に仕事を任せる」ということを重視して学校経営を行ってきた。そのことにより、各教員が、自らの校務分掌に強い責任感をもって取り組み、その結果として達成感や有用感を感じることができ、そのことが「生きがい」につながると考えた。今年度の初め、先生方に「誠実な切磋琢磨」というキーワードを示して教育活動をスタートさせたが、長池小学校の先生方は、正にお互いに切磋琢磨しながら、よりよい学校づくり、授業づくりに励んだ一年間であった。

保護者・地域の皆様におかれましては、先の「安全・安心」の部分でも述べましたが、様々な面でたいへんお世話になった一年間でした。特にながいけ会・学校運営協議会・3校合同学校運営協議会・青少年対策松木地区委員会の皆様におかれましては、長池小学校の子どもたちのよりよい成長のために様々な活動をしていただき、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

これからも、「安全・安心で信頼されること」を基盤とし、「学び合うこと」を中核としながら、子ども・保護者・地域の皆様・教職員にとっての「生きがい」をうむ学校となるよう、皆で知恵を出し合い、よりよい教育活動を進めてまいりたいと存じます。

そして、一人でも多くの人（子どもも、大人も）が「長池小学校に通って（通わせて）よかった」「長池小学校と関わってよかった」と思えるよう、誠心誠意尽くしてまいります。

令和7年度、長池小学校に関わってくださった全ての皆様に心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

そして、今後とも長池小学校へのご理解、ご協力、ご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

一年間、ありがとうございました。